

「牛久の里山樹木ハンドブック」の紹介

羽賀 正雄

本書（以下H B）については、会報1月号（No.119）「巨木リサーチ事業報告」において、渡辺泰代表から、編集の経過、樹種選定の基準、記載事項の内容、紙面の構成そして類書とは異なった特徴について記載されています。ここでは、その続編として、H B利用のポイントを紹介いたします。

下図をご覧ください。黄色地に赤色の樹種名「ゴンズイ」が目に入ります。キャッチフレーズ「熟した・」は、樹種の特徴を一言で表現しています。樹種名の下には、科名・属名及びその学名（属名/種小名）が記載され、別名が併記されています（例：スタジイ/イタジイ、シイ）。また、近年における分子系統学（DNA解析の応用）の成果を反映した新科名を参考として（）書きしています（例：スギ（ヒノキ）科→スギ科はヒノキ科に編入）。青地には、生活型、生育地（市内）、開花期（市内）、国内の分布といった基本的事項が要約されています。

現地での観察においては、現物・樹木と写真と解説文とを繰返し照合することが必要です。解説文は、3区分されています。①県内・市内の分布状況、②樹皮・葉・花序・果実等の特徴、③名前の由来等です。写真との関連は①は左側の樹木全体、②は右上段の花と下段の果実に対応しており、文中に該当する写真の番号を（）で示しています。写真の下には、

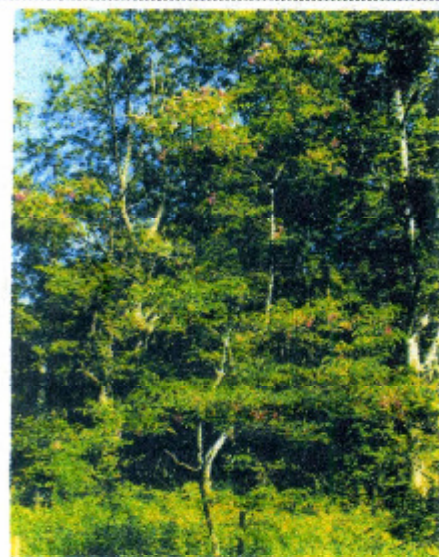
説明と撮影場所・期日が記載されています。ゴンズイの花には「城中、斜面林、11・6・1」とあり、6月頃牛久沼近くの斜面林で花を観察できることが分かります。秋9月頃であれば、果実の写真と照合すれば同定できるでしょう。

さらに、本文に付随する資料も参考にあります。冒頭にある「牛久市における木本植物の生育環境」は、その環境を斜面林、河畔林、社寺林など8区分し土地利用の変遷に触れながら、木本植物の現状について解説されています。ゴンズイの生育地「斜面林・林縁」については、本

稿の斜面林を読むことにより理解を深めることができます。樹種名とともにその樹種が生育している環境を知ること重要です。

巻末の「牛久市内の自生木本植物名」は、市内で見られる木本167種（うち90種掲載）について科別分類と自生、移入、外来、栽培逸出等の区分を示しています。身近な樹木が市内に自生しているのか、他所から持ち込まれたものかを知ることも大切です。「植物用語」は、解説文に用いられている用語についての説明です。ゴンズイでは皮目、円錐花序、

袋果等を確認できます。H Bは「市内に自生する身近な樹木」について、見易く、分かり易く、美しい、かつハンディーな樹木図鑑があつたらとの思いから編集されています。編集メンバー自らが持ち歩きたい図鑑であればこそ、皆さんや市民の方々に使用していただくと考えます。野山が躍動する春です。H Bをポケットに散策されてください。



1. 結実期の樹形 観察の森 12.9.13



2. 花序 城中 斜面林 11.6.1



3. 果実 同左 12.9.13

ゴンズイ 熟した実は自然の妙

ミツバウツギ科ゴンズイ属 *Euscaphis japonica*

1. 生活型：落葉広葉樹の小高木（高さ3～6m）
2. 牛久の生育地：斜面林・林縁など
3. 開花期：5～6月
4. 国内の分布：本州（茨城・富山県以西）～琉球

県内の分布は北部に少なく、南部には普通に自生します。市内では斜面林や林縁に広く生育しています（1）。樹皮は黒緑色で、灰褐色の皮目が縦に不規則な割れ目が入ります。葉は対生し奇数羽状複葉、長さ10～30cm、5～9枚の小葉をつけます。花序は長さ15～20cmの円錐状、直径3～4mmの黄白色の花を多数つけます（2）。果実は肉質の袋果で、赤色に熟すと反り返って裂開し、黒色の種子1～3個が現れます（3）。名前の由来について諸説ありますが、魚のゴンズイのように役立つからともいわれています。

【本文の事例】38頁「ゴンズイ」樹種名、写真、解説文が見易く配置